

# プロレタリア通信

70号  
2017年  
8月10日

発行人 共産主義者同盟プロレタリア通信編集委員会  
発行所 豊島文化社 〒171-0031  
東京都豊島区目白2-18-15 目白コンドル101  
TEL&FAX 03-6328-9457  
郵便振替口座 00110-00773588  
年間購読 送料費込 一〇〇〇円 一部二〇〇円

# アベノミクスの破綻 戦争のできる国・美しい日本をとりもどす

## 美ら海に 基地はいらない

### I アベノミクスの破綻

日銀総裁の黒田東彦はデフレからの脱却、物価上昇2%をかかげて登場した。しかし就任以降、安倍晋三ともども「道半端」を繰り返してきた。そして遂には、2019年度中にもあやしいと言い出した。黒田東彦は、金融政策のみでは限界であることを吐露したのである。

- ① 公共投資・原発再稼働と復興と基地建設をもつてしては、個人消費浮揚とならず
- ② 金融政策の破綻
- ③ 成長戦略は何一つこれと言った方針なし。TPPとEPAで効果なし

このアベノミクス・3本の矢はことごとく失敗した。そもそも、安倍晋三は、国民の生命財産を右に左に売り飛ばしてきた。2度と取り戻すことのできない国富の喪失を福島県で、沖縄辺野古でもたら

している。

加えて、国民・国家の財産を管理すべき財務省理財局長の佐川宣寿は、国会答弁で「記録がない記憶ない」を繰り返して、8割も値引きして土地を売り飛ばした責任を放棄した。この無責任極まりない理財局長は、この国会答弁から2ヵ月も経ずして税金取り立て長官に昇任した。

安倍晋三を柱とする自民党・公明党内閣は国民・神を国民・神とも思わぬ所業の数々である。強権をもつて民・神の声を圧殺しようとするものに他ならない。暴力装置と多数決。

自民党憲法草案がそうであるように、人権を基礎とする平和主義をくつがえすために人権条項をことごとく無視・敵対する。こうして安倍晋三は2017年の5月3日、読売新聞に憲法改正を、特に9

条に1項を加えると。自衛隊を国防軍と明記することを主張した。この「加憲」なる語彙・言語は、公明党のかねてよりの憲法改悪論である。また民進党内では前原誠司や細野豪志、玉城雄一郎などなど多数を占めるのである。

### II 戦争のできる国・美しい国を取り戻す

第一次安倍晋三内閣は、戦後レジームからの脱却、美しい日本を取り戻すをスローガンに華々しく登場した。戦後レジームの象徴としての憲法改正こそ急務であると。憲法にもとづいて組閣する行政府の長として憲法改正を公言した安倍晋三は多くの国民から驚きをもつて迎えられた。しかし一方、百地尚樹や石平、櫻井よしこなど国家主義・天皇主義者たちに歓迎されたのである。「諸君」「WILL」「Hanada」などで、これまで以上に歴史修正主義を展開した。

かつての愛媛県知事・加戸守行も、97年結成の日本会議の顧問につき、2006年第一次安倍晋三内閣後ふたたび

活発に活動した。加戸守行は、つい2ヵ月前の国会招致の際、加計学園ありきで何処が悪いと、これは県益だ、今治市益だと開き直り、安倍晋三と加計幸太郎の友人、それがどうしたとも受けとれる発言を繰り返した。

美しい日本を取り戻すとは、戦争のできる国のことであり、戦争のできる国では美しい日本を取り戻すことである。では、美しい日本を取り戻すとは何か、それは、天皇・天皇制に深く関わる事柄である。それ故に、イデオロギシユな大衆運動としての日本会議（生長の家青年部）を念頭に考察してゆかねばならない。

1 第一に彼らは歴史修正主義であること。  
(イ) 1928年否、1870年代からアイヌモシリ、琉球・沖縄を侵略・植民地とした。この侵略・植民地ヘクラーク的には、開拓・青年よ大志を！をある種モデルとして台湾を、朝鮮半島へ触手を延ばした。欧米列強からの防衛なる言説は方便である。

こうして大陸満州国のデッチ上げ、ついには中国全土へと。  
(ロ) そのために盧溝橋事件をデッチ上げ、南京での民衆虐殺を繰り返りひろげたのである。

歴史修正主義とは、これら一切は「八紘一宇・大東亜共栄・欧米排除・アジア解放・五族協和」のためであると強弁する。  
第2、すぐれた民族、世界に冠たる民族ヤマト民族、その敵父（敵母）としての天皇・天皇主義・天皇制。この世界に冠たる民族に統合の象徴こそ現人神天皇であると。したがって、五族の長兄としてのヤマト民族こそ世界に誇れると。

第3に、美しい国・大東亜共栄（八紘一宇）をもつてアジア解放の旗手とならんと。この復元・復活こそが第一次安倍晋三の志したものである。その最終章こそが、憲法改悪であった。  
第4に、この美しい国を取り戻すとは、戦後レジーム（民主主義・人民主義）を打破すること。こうして、安倍

晋三と昭恵は、森友学園に肩入れした。名誉校長や寄附を自ら進んでした。

安倍晋三の秘蔵つ子と言われる稲田朋美は、誰はばかることなく国会で森友学園での「安倍首相ガンバレ！ 教育勅語」の暗誦を称讃した。

戦後レジームの象徴たる「人権・人民主義にもとづく平和主義」解体・粉碎として自民党・公明党による安倍晋三内閣は成立した。

2007年、この安倍晋三内閣と、そこに横たわる思想と運動に危機感をもった人々は、日本はもとより世界的な紐帯をもって「9条連」「9条の会」「9条改憲阻止の会」などが結成された。これら団体は、森友学園の籠池泰典や安倍晋三・昭恵に反対だ！ ということに止まらない。「人民主義・人権」が踏みじられようとしていることへの危機、再び、3度の国家主義戦争への道への人々の危機意識にほかならなかつた。

それ故、2012年12月末の第二次安倍晋三内閣成立時から全国津々浦々、全世界から歴史修正主義への危機が表明された。アキヒトもしばしば、談話を出した。

第二次安倍内閣は、秘密保護法・安保法・戦争法としてついに治安維持法をもつて人々を相互に監視させ、かつ権力の捜査権限を大幅に拡大する共謀罪なるものまで成立させた。

だがしかし、安倍晋三を筆頭とする右翼・右派の活動が活発化すればするほど、農民主義・労働者主義・主婦やママ・母親の自己主張にもとづく活動も全国化する。

いま、既成政党・（カッコ）ツキ「マルクス・レーニン主義」も）と政治は、極度の混乱の時代にある。この時代背景は、全世界的にそうである。キューバ、ベトナム、東ティモールなどを始め中国も中東諸国も、EU連合とイギ

リスもあらゆる地域や国家はゆらいでいる。

III 新しい共産主義運動  
21世紀はゆらぎの時代である、と同時に新しい共産主義運動の時代でもある。

日々新たなに生まれる大衆・人民運動は、吾が日本全土で躍動している。フクシマで、沖縄で、ヒロシマ、ナガサキで、ましてやTPPや日欧EPAにさえ反対する消費者団体、農民をはじめとする生産者団体は日々誕生しているのである。

21世紀こそは、思想も運動も当該の人間・人々が自ら生産し再生産するのである。これを新しい共産主義者と言う。

新しい共産主義運動を創造する。この共産主義者を自ら構築する。

保守的な思想・保守的な運動からは何も生み出せない。

保守的な思想、哲学と運動からは、積極性・根底性は生まれようがない。まして既定の既存の枠、型からは、何者をも生み出さない。

つまり非科学主義・没理論主義のことを保守と言うのだ！ ここに21世紀の始まりがあり、20世紀の総括があるのだ！！

保守主義・没理論主義を打倒せよ！

新しい共産主義者にバイブル・聖書・〇〇〇主義はない。新しい共産主義運動に特殊、特別な指導者などない。

新しい共産主義者、新しい共産主義運動とは、当該が発案・発信するばかりではない。自ら担うのである。あらゆる意味で主体なのである。没理論主義とは没主体性のことでもあるのだ。

つい最近の話、「1970年代のブントの指導者は武装闘争を信じていたのですか？」と質問されて、「信じ

ていなかった、と！

これこそ果然ボウ然！ である。この号令主義者は、武装闘争を自らの方針とすることなく、したがって実行する気もない。口から出まかせ、ただ無責任にペンを走らせたのみ、これが、吾、第2次ブントの政治局員である。今もつて只の1人の賛同者・支持者もいない事にうなずけるものである。他人（敵味方）がどのような傷を負うとも指導者だから知ったことではない。現場が責任とれ！ これは稲田朋美の言いぐさと同じではないか。正式な会議であろうとなかろうと指導者たる者、言葉そのものに責任を負わなければならない。

生まれながらにして指導者だから、加盟書を書いたことも党費など払ったこともない」と豪語してやまない指導者である。私は「武装闘争・プロ独」を信じ、あらゆる事に挑戦した。未知に挑戦した。しかし、かの武装闘争は、ク

データ以下であったことを反省し、農民に、労働者に、アイヌに、沖縄に、在日台湾や在日の金文善に寄りそってきた。私は自ら肉体的にも大いに傷ついた。この反省にたつて「人々に寄り添う」ことこそ、新しい共産主義者像であると確信するにいたつたのである。1980年9月ノツカマップでアイヌと出会って、私は生まれかわつたのである。

新しい共産主義者・新しい共産主義運動を！

そして自ら新しい共産主義者像を構築しようではないか。

これからは特定の人間を指した同志ではない。農民・労働者・主婦もママ・母・保護者も念頭にした同志である。同志とは相互に信頼し合う人民のことである。

これこそが新しい共産主義者像であり、同志像である。同志諸君ともに前進しようではないか。

つかあるようであるが、①与党の委員長の時には例がない②過去の法案は言ってみれば国民に大きな対立点が存在しない小型の法案であった③今回の場合、当初予定していた審議時間は18日か、それがダメなら一週間延長すれば事足りたのであるが、安倍政権

強行採決という手筈だったのだけど、今回の参議院では法務委員会でまだ審議途中であるにもかかわらず、委員長の『中間報告』という形で本会議に持ち込まれ、これを強行採決してしまったのである。これは前代未聞である。これまでもこういうやり方はいく

共謀罪の強行採決を弾劾する！！

佐藤 保

参院法務委員会で審議された。『共謀罪』法案が、6月15日早朝、強行採決された。これに断固抗議するものがある！！ 今回も異例の法が採られた。衆議院では法務委員会で審議中、『維新の会』より緊急動議が出され、

# 共謀罪の強行採決を弾劾する！！

# 福島原発事故刑事裁判報告

佐藤 保

はそれすら我慢できないほど『森友』『加計』両学園問題で追いつめられていた証である。連日、新しい証拠がマスコミに持ち込まれ、政権は「記録がない」「デマ記事だ」「印象操作だ」と逃げ回るしかなく、その姿はアメリカのトランプそっくりで、前川前文部次官の言っている事が正

しく、安倍がやってきた事は全て「お友達」「取り巻き連中」への利益供与しかない事が全国民に知れ渡り安倍への不信感が日々増大して現在に至っている。①「丁寧に説明する」という安倍の言葉は一回も実行された事がなく、国家機密法、戦争法においても強行採決したあと、詳しい説

明などやった事がない②日本経済を成長させる為、株価を上昇させるとして財政投融资を注ぎ込んできたが、それは稲田防衛大臣を始めとした、株を大量購入している連中への利益供与である事がバレてきた③自ら選んで当選させた新人議員がこれでもかこれでもかと次々に不祥事を引き起

こし、安倍の責任が問われている。④自ら後継者として指名した稲田防衛大臣がまたまた西日本豪雨で自衛隊が緊急派遣されている最中に防衛省を抜け出して、自分の支援者から頼まれた会合に出席していた事がバレて問題となつて

いる。これらが災いして、7月2日の都議選では56名から22名に議員数が減り、「選挙に強い安倍」だからこそ成り立つてきた安倍政権も崖ぶちに立たされている。安倍の支持率は世論調査をやるたびに低下しており、風前の灯である。今朝の報道では仙台市長選で、野党統一候補が与党支持候補を破り当選した事が報じ

られ、安倍政権への不信感が大きく影響していると、マスコミは分析している。国家機密法、戦争法、盗聴法、共謀罪との間、立て続けに悪法が強行採決され息苦しくなってきたが、このまま安倍を打倒するまで、闘いを継続していこう。

6月30日、東京電力の福島原発事故による業務上過失致死傷罪に問われた3幹部の刑事裁判が6年半が経過して、やっと初公判を迎えた。

当日は異常の連続であった。①朝10時開廷なのに傍聴したい人間は7時半から8時20分までに地裁へ来て整理券を受け取れという命令であった。普通なら9時20分まで行けば間に合うのである。福島現地からバスを仕立てて上京して来る原告は、御前3時に郡山駅待合の人を5時までバス停に行かなければなら

ず、そうやって、やっと東京に着くのは9時頃が精一杯。②大法廷を使うので97席あるはずなのに一般傍聴人に割り当てられた枚数は54枚だけ。残り40枚は記者クラブに加入しているマスコミに各社2枚づつ割り当てるといふ念の入りのりよう。

被害を被った福島県民を全く無視した東京地裁の対応であった。こんな事二度と許してはならない。記者会見ではあるまいし、マスコミを優遇する必要は一切ない。別室にモニターを用意する事で事足りるのであるから、そうすべ

きであった。福島に被害者を遭遇して3被告はどんな顔をして公判に臨んでいるのか、疾と見物させるべきであった。それでこそ被害者に開かれた公判と言える。

こんな事情になる事を直前に乗って8時到着をめぐりた。着いてみると知人はそれほど多くなく(たんぼぼ社のメールを受け取っている人は判っていたが、そうでない人はいつもの時間(9時すぎ)に来られたのではないか)、マスコミ系、大学関係者で当たった人を全部集めても13枚

でしかなく、福島から来た人は夕方5時まで、休憩時間を利用して交替で傍聴されていたようです。

検察官役指定弁護士 東電は少なくとも、事故の起る3年前(08年3月)、国の地震調査研究推進本部の長期地震予測に基づき、福島原発に最大で高さ15・7メートルの津波が押し寄せるとの試算結果を得ていたと指摘した。この試算について武黒・

武藤両元副社長は認識し、勝俣元会長も大津波の可能性が指摘された社内会議に出席していたことから「知ることができた」と主張した。

これに対して三被告は異口同音に「津波の発生、事故を予測することは当時は不可能だった。刑事責任については無罪と考える」と述べた。

新聞では大まか、右のように報道されていたが、補助弁護人として審理に関わった

「1000年に一回起こるかどうかわからない所まで考えていたら、いくら金がかかるかわからない」(吉田所長)という考えに代表されるように、国から正式に言われるまで、やらないことになろうとなつたのであろうと思われる。警告は(前橋地裁の判決では)02年にマグニチュード8級の津波地震発生の可能性を指摘されていた時から出されていた訳で東電では十二分に承知していたのである。

# 韓国サンケン労働組合の解雇撤回闘争の勝利万歳！！

佐藤 保

前号で韓国サンケン労働組合の解雇撤回闘争のあらましを述べ、読者の皆さんにできうるかぎりの支援を要請しましたが、急転直下、6月2日に会社側と組合側との間で合意書が調印され、組合側の完全勝利に至ったので、その内容を紹介します。①整理解雇は撤回する②生産部門の廃止を撤回し16名全員を生産職に復職させる③労働組合の存在

を認めて活動を保障する④これまでの労働協約を維持する。という内容で組合側の全面勝利になりました。組合側の要求で勝ち取れなかったのは①会社側からの謝罪と②一方的に不当解雇した組合員に対する慰労金の2点でした。会社側も意地でのこの点は頭を下げなかつたのであろう。それ以外、主要な点は組合要求通りになったので、勝利で

## 《闘争の発端》

これまでの経過を振り返ってみると、争議の発端は、韓国サンケン経営陣の2010年以降に起きた経営方針の誤りによる①売れない部品の大量生産(見込み違い)②その中で不良品を作り続ける技術上の謝りも重なり大量の在庫を抱え、急激に大幅赤字に転落していき、立ち往生してし

まった事であり、その責任を組合に転化するというメチャクチャな事をやってきた事が事態を大きくして今日に至った。

《韓国サンケン労働組合は日系企業の中で唯一『民主労総』に加盟する組合で、目の上のタンコブであった》

韓国サンケン労働組合は決して韓国サンケンを敵としてみなしては来なかった。

# 環境破壊、人権侵害の第三滑走路計画、飛行時間制限緩和に反対しよう。

小山 明

七・二 三里塚・東峰現地行動報告

七月二日、三里塚空港に反対する連絡会は旧東峰出荷場

跡で四五名の参加をもって「三里塚・東峰現地行動」を行った。集会に先立ち連絡会は午前中に横堀鉄塔の中段に設置されている「抗議する農

民」(沖繩の彫刻家・金城実さんの作品)を降ろす作業を行い、横堀研修センターの清掃・整備作業などを行った。

れ傷みもあるため今後補修していく予定) 集会は山崎宏さん(労活評現闘/横堀地区)の現地報告

2000年から2010年までは非常に忙しく、『昼夜三交代』『日曜、休日』も返上して会社に協力し、利益増大に貢献していたのである。しかし、経営陣の経営方針の誤りから赤字に転落したのを契機に経営陣が一方的にリストラをしてきたので、労働者の権利を守る為、一致団結して闘争してきただけである。会社側がまともになれば協力してやっていけるのである。

《旧社長が急死して、新社長が決まり、本当の意味での職場復帰はこれからである》

7月21〜23日まで韓国サンケン労組役員3名が、レイバーネット映画祭に参加する為、来日した。その歓迎会の席上、その後の状況を聞いた。それによれば、

①急死したキム社長の代わりに『LG電子』から新社長になる人がヘッドハンティングされたが、組合員とは会っていない②工場は今の場所です再建されるが、機械はまだ入ってきていない③従って操業は機械が入り、それに伴って生産方法を組合員が熟知してからになるので、来月になるだろう、という事でした。

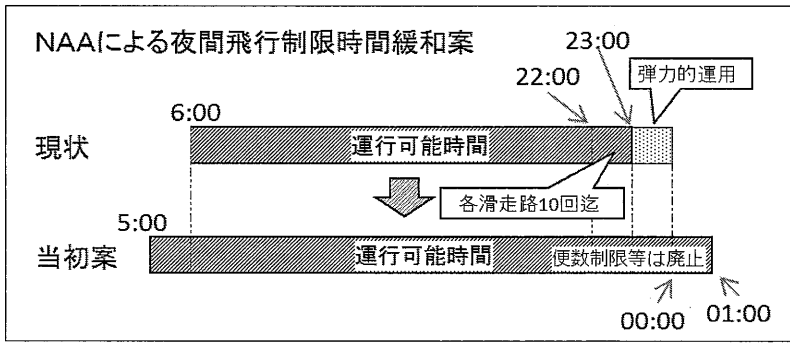
組合員潰しにやつきとなつていたキム社長がこのまま居座れば、またまたやつかいな事が起きるのではないかと危惧していたので一安心である。

新社長には、本来あるべき会社と組合の協力体制の下、経営に専念してもらいたいものである。

から始まり、二〇二〇年東京五輪・パラリンピックを口実とした夜間飛行時間制限緩和が住民の反対を踏みにじって進められようとしている現状が語られ、住民無視の飛行時間制限緩和に断固抗議してゆくこと、空港そのものが軍事インフラであり、厳しく監視し、空港の軍事利用に反対してゆこうと訴えられた。集会では石井紀子さん(成田市川上・農業)、平野靖識さん(三里塚らつきよう工場)、大森武徳さん(らつきよう工場)が発言され、最後に「飛行時間制限緩和を許さない! 成田空港「第三滑走路」計画を撤回せよ! 裁判所の強制執行! 現闘本部破壊を許さない!」のシュプレヒコールを行い、開拓道路に向けてデモに移った。集会の様子は三里塚芝山連合空港反対同盟大地共有委員会(2)のブログ <http://blog.livedoor.jp/kyouyuisanri/archives/9601037.html> を参照の事。

夜間飛行制限時間緩和に同意した四者協議会

国土交通省・千葉県・空港周辺九市町・成田国際空港株式会社(以後NAA)で構成された「四者協議会」が六月一二日富里市内で行われ、夜間飛行制限時間の緩和をめぐり、NAAが発着時間を三時間延長する当初案を見直し、当面は一時間延長する案を提示し、四者協議会はこれを受諾し、「成田空港の更なる機能強化に関する今後の取り組みについて(確認書)」https://www.pref.chiba.lg.jp/



第1図

NAAが昨年九月に提示した機能強化案ではこれを二二時台、二三時台の制限を撤廃した上で、五時から一時までの二〇時間運行を認めるという案であった。これでは周辺の住民にとっては最大四時間の睡眠時間で我慢するという話

kuushin/narita/documents/kakuninshyo290612.pdfを締結した。

当初の夜間飛行制限時間緩和案とは

緩和と云うがでは一体どんな内容なのだろうか?

左の第一図が当初のNAAによる緩和案である。

これは現状の六時から二二時までの通常運用と、各滑走路一〇回までの二三時までの一時間の運用、これに成田空港における台風、大雪等の悪天候の場合や、航空機の安全や乗客の生命に関わる場合等、緊急又はやむを得ない場合に限定し、緊急事態として二三時台での離着陸を認めていた。(二〇一三年三月の四者協議会における合意で、出発地空港の悪天候等、航空会社の努力では対応出来ない場合に限り二三時台の離着陸を認める物にさらに緩和。)

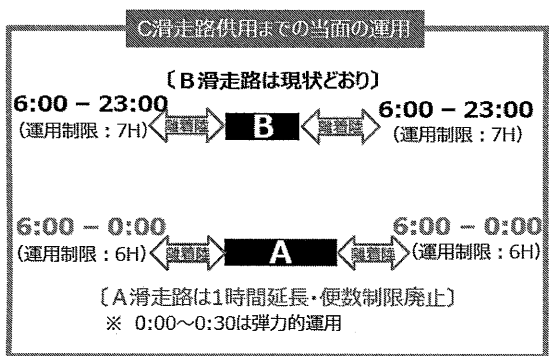
であり、ほぼ全ての住民が反対するという事態を現出させたわけである。

四者協議会により同意された飛行制限時間緩和案

それはNAAによれば「地域からの要望を踏まえつつ、成田空港の国際競争力の確保と地域住民の生活環境の保全の両立を図る観点から、飛行経路下における静穏時間を六時間確保できるよう配慮」した案なのだが、

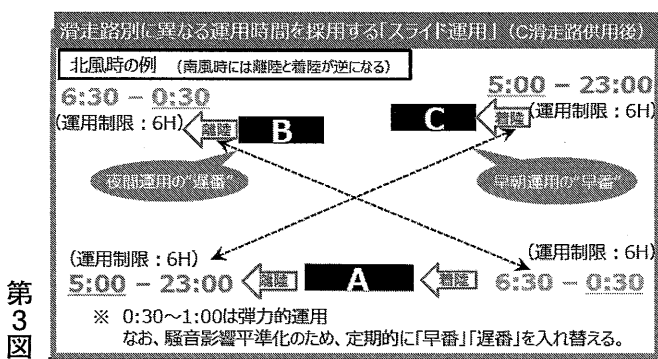
【C滑走路供用までの当面の間】

A滑走路において三時間の延長案を一時間延長にし、六時から〇時までの運用時間とする(ただし、〇時からの三〇分は弾力的運用を行う) ・二〇二〇年東京五輪・パ



第2図

ラリンピックまで実施。これを図示したのが第二図であり、「二〇二〇年までの三年間は最大五時間半の睡眠時間を確保させてやる。」という内容である。 【C滑走路供用後】 ・滑走路別に異なる運用時間を採用する「スライド運用」を導入し、飛行経路下における六時間の静穏時間を確保した上で、空港全体としての運用時間は五時から〇時三〇分までとする。(ただし、〇時三〇分から一時までの三〇分間は弾力的運用を行う) 六時間の静穏時間を確保と云えば聞こえはいいが、横にまたいで幅およそ一八〇〇mの空港の滑走路下にあつては実態は五時から一時までの二〇時間運用に変わりはない。



第3図

分の睡眠時間削減のもとで住民の抵抗力を奪い、当初の二〇時間運用を実現しようというえげつない戦術と言えよう。 成田は海岸から二〇キロ以上の内陸空港である。だから、飛行制限時間の制約は開港以来の必須条件であった。しかし、第三滑走路の建設と飛行制限時間の緩和は騒音地帯の拡大によって確実に周辺地域の環境を破壊し住民の住めない地域へと変えてゆく、第三滑走路の建設後は騒音地域は横芝光町の半分近くへ拡大し、あとほんの数キロで海浜空港と呼べる状態となる。 実体的な海浜空港化それが第三滑走路計画と飛行制限時間緩和に伴う結果である。 「住民① 五、六年前の三〇万回るときは、地元合意を無視して行われてしまった。第三滑走路、夜間飛行制限の緩和についても、同じように合意無しで行ってしまったのか。多古町は騒音が大きく影響するが、まるつきり反対であるならばやらないのか。」 NAA 三〇万回るときに地元合意の話が無かったというのだが、四者協議会の中できちんと合意を頂いて行っている。 住民① 地元説明会は牛尾地区で一回行われただけであり、合意はしていない。地元合意ではなく、四者協議会の合意のみである。真の騒音下の合意はなかったはずだ。それは今回でもやるのか。」

追悼文

突然に！ 名護市源河（オシツタ）に入植していた宮城節子さんが亡くなった。

宮城節子さんは三里塚東峯大木よね（小泉よね）と生活を共にした。

三里塚でも宮城節子さんを偲ぶ会・追悼会（6月18日小泉英政を中心に行った）を催すことは確かである。

そこで、小泉英政の著書『土と生きる循環の農場から』を思い出した。2013年9月20日岩波新書として発行された。

尚、①9月23日、名護市勤労福祉会館にて、宮城節子追悼集会・偲ぶ会が催されるそうだ。

②7月2日、三里塚・東峯現地行動は、午前中、鉄塔から金城実製作の像をおろした。労農合宿所・研修センター周辺の草刈。

午後、元東峯出荷場広場で集会・デモ、デモ解散地・出荷場広場。集会デモ解散後東峯集落墓地へ！ 小泉よねの卒塔婆を中心に宮城節子遺骨を散骨。墓まいり。合掌！

(編集子)

追悼

『土の匂いをさせて闘い抜いた宮城節子』

木田 明夫

(一) 宮城節子

1946年うるま市（旧具志川市）江洲生れ。三里塚の闘女。1979年沖繩に帰る。

いもの会・ゆうな農場専従。本職は織物。金武湾反GTS闘争、白保新空港阻止闘争、高江・辺野古反基地闘争に加わる。

2017年4月6日、褐色芽細胞腫（ガン）で亡くなる。享年72才。

(二)

かつてその世代で闘った人々には知られた存在であり、そんな彼女を表現するにほんもつと適任者がいるのだけど、ひとつの縁なので少し関わり合った私が、追悼エピソードとして、彼女の一面を記させて頂きます。

(三)

彼女が帰沖した1979年は金武湾の闘いから白保の闘いへのちょうど過渡期。日米の軍事植民地化支配を197

2年5月「復帰」以降も受け続けていたこの島の闘いは、「生存権と海と大地と共同の力」を掲げた金武湾反GTS闘争として継続していた。64万坪の海が埋められ、石油タンク群がつけられるという既成事実化の前に対行政、裁判闘争も含めて後退が続いてた時期。

その一方で新たな触手が八重山にも及び、石垣島白保東海岸を埋めて新空港をつくる話もち上がる。すぐ同年に白保住民は新空港反対の闘いを始めた。

こういう時期に彼女がどんな思いで、三里塚から帰沖したのか。一度尋ねたことがある。白保の闘いでHSをやっている時だったか「沖繩人の意識だよ」と言っていた。その後の島と土に対する熱情のすごさが、意識の有り様を物語っている。

(四)

1985年4月。私は始めて彼女に会った。

1975年7月23日（「反海洋博・チリエスメラルダ号闘争」以来の在監獄暮らしだったが、獄中でも支援者のおかげで沖繩の情報は入手していたので、出獄後帰沖したら真先にあの闘女に会いに行こうと決めていた。1985年2月6日に長崎

刑務所を出獄し、4月のある日に友人の案内で山原オシツタりに会いに行った（当時のオシツタリは陸の孤島。山原のジャングルの中、未舗装の山道をなんとか迷わずに辿りつく開墾部落）。昼でも薄暗いカヤブチャー（茅ぶき小屋）で、開口一番言われた言葉が忘れられない。

「木田君、あんたは相当のヤマトフリムナー（日本の超変人のこと）だね。でもこれからはあんな一撥主義ジャダメ。この島にいるなら、どう沖繩との関わりの中でやっていくのか、生き死にが問われるよ。ちゃんと見てるからね……」。あの大きな目ん玉・真顔が、更にジッととこつちを見抜く。一挙に緊張してしまった自分の強烈な印象として今でも思い起す。以降自分なりに白保の闘い、日の丸反天皇の闘い、軍用地との闘いなど関わり続けて来たけど、彼女の目にはどう写っていたのやろ。

(五)

閑話休題。1985年11月、オシツタリゆうな農場の農場祭での出来事。これも忘れられない。

この頃の「いもの会」「ゆうな農場」は専従者中心に授農者、部落住民、外部支援者などで運営されていて、年一

回「食の自立と土と共同の力」をテーマに農場祭を開き、多くの人を招き夜通し飲み、語り、騒いだ。

私も数人の仲間と出かけガヤガヤやっていたが、その宴もたけなわとなった頃、アルコールに浸された男共の醜態が始まった。地元山原で農業しながら活動しているKさんが、隣の席のラジニシのグループに突然かみついた。「オイ、何んでお前らがここにいてるんだ。一体この沖繩で何してるんだ。遊んでるだけか。」ラジニシの若いのが何か反論したのだろう。これに怒ったKさんが若いのに飛びかかった腕力抜群のKさんがラジニシの若者数人と揉み合う。廻りの仲間達は、こんな醜態もスケジュールのうちなのか「サア、はじまつた」と飲食物を片つけ、場を空ける。私も日頃のストレスは出させ、言いたいことは言わせた方が良くも思っていた。と、そこに少し遅れて節子さんが入って来、とつ組み合いを止めるでもなく言った説教が大当り。「だから男達は野蠻程度が低いと言うのよ。酒が入ると、しまいに必ず肉弾戦やらんと収まらな

い。……ここはケンカの場合じゃない。ケンカするくらいエネルギー余ってるのならもつと沖繩の為に使え……」って感じ。

(六)

節子さんの発病はいつ頃だったか？ 難病ということ

で琉大病院に入院したのは10年くらい前。その後体調良くなりコザの親戚の家で養成してからオシツタリへ帰り、また山での生活を再開していた。病気は治った訳じゃないので、養生第一を願う私も何度か「びわ種の酢漬」を届けたりした。少しでも調子の良い時は、自身の身を削るが如く

に闘いの現場に向かっていたようである。体がガタついて、山原の森が、海が、日々殺されていくのを黙って見ておれない性分は誰れもわかっていた。強情と無理の結果がいつの日か来ることも。

私が最後に会ったのは2年

くらい前。やつれてはいても元氣そうだったのだから話もしなかつた。そんな刻の過ぎるまま、ある日急に訃報

が届くのは全くやりきれない。今や周囲は終括世代ばかりで順番待ちみたいなもの。闘女節子さんも旅出ちの番が

早めにやつて来たかと思うしかないか。かつて金武湾反CTS闘争の導き手、安里清信先生の言

われてた「沖繩は沖繩であることが尊く、誇りであり、光である。自分のなかの沖繩人意識を闘い抜け」。この言

葉を島で実直に自己貫徹した人こそ、一人は嶺井妙美であり、もう一人が宮城節子である。土を愛し、牛を愛し、織

物を愛し、山原の山とその人々を愛した人よ、合掌！

仮称「3人会」

一、場所 豊島区目白2

の18の15 目白コンコルド101 豊島文化社

池袋駅東口・西武百貨店前より10分、明治通りを新宿より徒歩500米セブンイレブン右折、1つ目路道を入つて4棟目、目白コンコルド佐藤秋雄携帯 090-2456-9790

2015年「戦後70年時局懇談会」を催してきた。この継続と言うよりは全く新たに「3人会」(仮称)として公開学習会を2ヶ月に一度行つた。「3人会」とは、田中正治、三上治、羽山太郎である。

第2回を8月17日午後1時〜5時・豊島文化である。

一、テーマ・世界経済の減退と保守主義・排外主義の傾向について、次回は、1930年代天皇主義

一、参考文献

田中正治『情況』No.3 2016年12月25日発行「トランプ現象とサンダース現象」他関西ルネッサンス研究

会発行冊子などあります。三上治『流砂』11号〜13号

羽山太郎『プロレタリア通信』69号、70号

サブテーマ、敗北と再生…反動安倍晋三内閣と対峙する社会運動の再生について

A. ここ10数年に及ぶであろうか、一国主義・保守主義・排外主義的傾向である。これが一気に表面化したのは、北米合衆国大統領・ドナルド・トランプの「アメリカン・ファースト」によつてである。

吾が日本では、第一次安倍晋三内閣(2006年)によつて「戦後レジームからの脱却」が声高に呼ばれて以来である。

B. 私は、この世界における政治的傾向は世界資本主義(20ヶ国)の行きづまりにこそあると断ずるものである。その世界資本主義の行きづまりとは帝国主義的な20ヶ国の世界市場の平準化。また

は、生産力の低下にこそあると、加えて、金融資本の全地球的支配は、安倍晋三言うところの「トリクルダウン」など起り得ようもないというこ

とである。物の生産拠点は限りなく、南へ南へと。こうして関税障壁を撤廃したところで焼石に水状態こそがいわゆる北たる「先進国」である。

金融資本による支配とは何ものを生まない以上「トリクルダウン」は起きない。故に「南と北」の格差は、一国内においてはすくすくというのな

い格差を。貧困を！ 産み出す。大日本帝国、北米合衆国はもとよりロシアにおいても中国・韓国においても、何時、何処で暴動や自然発生的な武装反乱が起つても不思議ではない。これが私の世界を見る直感である。

「3人会」を始めるに当たつての私の心境を述べておく。私は、籠池泰典・安倍晋三・昭恵に至る日本会議について強い興味をこの数年抱いてきた。一言で言つて、「内戦・戊辰戦争」から侵略戦争へ！ 侵略戦争と大日本帝国の敗北！

そして、無反省の日本会議へ！ と言うのが私の歴史観である。

いま、ふたたび内戦を仕掛けていけるのは安倍晋三であり、時代認識である。

「日本と日本的」なもののルーツとは、天皇制のデッチ上げ、天皇主義なるものの強権・強制によるナショナリズム・国家主義を形成した。これこそが1850年代末から1870年代にかけての『薩長』による暴力の専有であつた。とりわけ、1868年8

月後の「官軍」なる造語以降である。この日本と日本的なもの「主義」の形成は吉田松陰による侵略思想を源流とする。これが私の歴史観である。「内戦・戊辰戦争」とは賊軍・反乱軍によるクーデターである。クーデターの成功としての官軍である。吾

が「マルクス主義」は手工業の発達、資本主義的な革新・産業革命の一貫とする。「内戦・戊辰戦争」を進化論的に位置づけるのがかつてのマルクス主義である。私はこれに？ ハテナとするものである。これこそが、進化論信奉のマルクス主義ではないかとするからである。

上・田中・羽山で「世界資本主義の行き詰り」、または「日本資本主義発達史」について討論しよう！ ということになった。日時を12月22日—〇—場所を豊島文化社として。

しかし、私の左肺、肺がんということが判明、新年早々入院手術という事となり延期となつていたものである。私は全快した。ここに、改めてごく親しい友人・知人の皆さまにお知らせする次第です。いわば、民族・植民地問題について、3者3様の見解が示されるはずですが、したがいまして、一度一回の「言ひばなし」ではすまないだろうと思ひます。数度の討論となること必定です。皆さまの議論参加を歓迎するところですよ。

※次回、1930年代の世界・日本と今日の日本会議の戦前回帰について、時代背景を別としても、ある種1929年恐慌から世界大戦へ。2008年から世界経済の減退から始まる「自国第一主義」。特殊日本の類推として、関東軍と日本会議。これは、あまりにも暴言か。

お詫び 7月16日以降、丸20日間もぬけのカラのごとくボケーとすごした。原稿は7月20日まですべて整つていた。遅くとも25日に発行予定でいた。原稿を寄せていただいた方々に深くお詫びする。

告 I 『プロレタリア通信』は次(71)号をもって廃止・廃刊とする。

II 豊島文化社は9月末日をもって閉鎖する。

### 第二回アオテアロア研修団派遣のご案内と協賛のお願い

アオテアロア・アイヌモシリ交流プログラム実行委員会は、2013年の第一回アオテアロア研修団派遣に続いて、以下の内容で第二回アオテアロア研修団を派遣いたします。今回はアイヌ文化振興・研究推進機構海外派遣事業として、同機構から経費の半額を助成していただきます。しかし、残りの半額は実行委員会がまかなう必要があります。私どもは精いっぱい資金づくりの努力をする所存ですが、皆様の温かいご支援をいただければ幸いです。

期間：2018年2月2日～2月13日

アオテアロア・アイヌモシリ交流プログラム実行委員会

連絡先：島田あけみ

e-mail:shimada0817snoopy@i.softbank.jp

### 東電元幹部刑事裁判が始まった！

#### 9.2 東京集会

2017年9月2日(土) 10:30～12:15

田町交通ビル6Fホール (東京都港区芝浦3-2-22)

#### 福島原発刑事訴訟支援団

〒963-4316 福島県田村市船引町芦沢字小倉 140-1  
080-5739-7279

# さようなら 原発 戦争 全国集会

2017年9月18日(月) 敬老の日  
代々木公園B地区

11:30 出店ブース開店  
12:30～13:30 ミニステージ  
12:30 開会 野外ステージ  
さようなら原発ライブ  
13:30 発言  
15:00 デモ出発

主催：「さようなら原発」一千万署名 市民の会  
協力：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会  
連絡先：さようなら原発1000万人アクション事務局  
東京都千代田区神田駿河台3-2-11連合会館1F 原水禁気付  
TEL03-5289-8224

### 第22回 ABC各委員会スタディツアー

## 731部隊本部跡—ハルビンを訪ねてみませんか

日程：2017年10月15日(日)～18日(水) 3泊4日

訪問地：ハルビン、背蔭河

■募集人員：10名 ■費用：123,000円 ■申込み締切り：8月25日

ちよつと余裕のある方は、足を延ばしてみませんか！

## 中口国境の街「虎頭」と炭鉱の町「鶏西」を訪れる

日程：2017年10月15日(日)～22日(日) 7泊8日

■募集人員：10名 ■費用：192,000円 ■申込み締切り：8月25日

### 主催&申込み先：ABC企画委員会

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-22-15-101 電話/FAX042-348-1127 (担当：和田)

[ABC企画委員会とは……A・Atomic (核) B・Biological (生物) C・Chemical (化学) 兵器に反対する委員会]